KARIBIB の回想

2023 年度１次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年４月１日　Vol.12

2023 年９月 27 日、この日僕は人生最大の正念場を迎えていました。そう、この日は同僚をホームパーティへ招待する日です。事の発端は、こちらに赴任してからすぐ、同僚の一人に「Taka, いつ私たちをあなたの家に招待してくれるの？」と尋ねられたことです。実は海外の一部の国では誕生日に、お祝いされる方が普段お世話になっている人たちにスイーツを配って回るという慣習があり、ナミビアもそれに倣っていたため、今回のこともその延長線上かと思っていました（後で違うと分かりましたが(-_-;)）。そのため、きちんと招待状まで用意し（写真１）、事前の周知も抜かりなくやっていました。

ただこのイベント、正直な所あまり気が進みませんでした。というのも、vol.8 で自身の料理について少し紹介すると触れましたが、数あるタスクの中でも、料理だけはどれだけ時間があっても手間暇をかけよう・上手くなろうと思う気になれず、結果一日を通して自身の作った食事（と言えるほどの物ですらない）を口にする時が最も憂鬱な時間になってしまっているという自分が、人を家に招待し、挙げ句自身の料理で人をもてなすなど、ここ数年で地球が滅びるくらいあり得ないことだからです。ただ、そのあり得ないことを実現しなければならない日がとうとう来てしまいました。さらにこの日は午前中に JICA 関係者が授業見学のために来訪し、放課後は昨日の CPD 研修の残りがある（vol.11 参照）という時間の制約をいつも以上に受けながら準備しなければならない日で、こちらに赴任してから最も多忙な一日でした。

放課後の研修も終わった 15 時ごろ、急いで家に戻り、食材の買い出しの為にスーパーへ向かおうとしていたところ、ちょうど隣の家に住む同僚と遭遇し「どこに行くの？」と尋ねられたため「スーパーに買い出しに」と答えると、次のようなことを言われました。

写真１：招待状

写真２：盛り付け前の料理

『乗せていってあげるから待ちなさい。それと Taka、どうしてあなたはなんでも一人でやろうとするの？歩きだと荷物は重いし、時間がかかるでしょ？料理も手伝ってあげるから、困った時は人に頼らないとダメよ。』

このやり取りは、半年たった今でも鮮明に覚えています。自分ではそのつもりはありませんでしたが、小さい頃から“自分でできることは自分でやること”、“他人に迷惑をかけないこと”と教わり、そのような環境で育ってきたため無意識にそう見られる行動を今まで取っていたのでしょう。日本の職場だと「休むと同僚に迷惑がかかる」、「自分がオーバーワークしていても他の人に仕事を振ると迷惑をかける」等特にこのような傾向が強いように感じます。しかし（これは完全な自分の憶測になりますが）アフリカの人々は、今よりもっと貧しかった時代に生きていくためには隣人と手を取り合うことが必要不可欠で、その名残りが今も残っているため、困った時に人に頼るということに対するハードルが日本人ほど高くないのかなと感じます。現に思い返せば、配属先で「Taka、〇〇やって」や「Taka、△△お願い」といった些細なことから大きいことまでよく頼まれごとを受けました。また、微熱があった時に出勤した際、校長先生から「どうして今日来たの？連絡入れてきちんと休むの。病院は行ったの？すぐに帰って、休むのよ。仕事はどうでもいいから。」と言われました。

この考え方は、いい意味で自分の今までの価値観を壊しました。今までは上述したような日本人の価値観にどっぷりと浸かっていましたが、この言葉を受けて“もう少しこっちの人のように周りを頼っていいんだ”と思えるようになりました。そのため、言葉に甘えて買い出しに同行してもらい、すぐさま一緒に支度を始めました。

メニューは日本料理ということですが、もちろん自身にそんなレパトリーはなく、事前に色々な人に「サルでも作れる日本料理ってない？」と相談しまわった結果、卵焼き（なぜかこれだけは作れる(。´・ω・)？？）、ケチャップライス、カレー（日本料理ではないというツッコミは無視します）になりました。支度中、先ほどの同僚があまりにも手際の悪い僕にシビレを切らしたのか「Taka、〇〇やったの？」「なんでこれを使っているのよ？時間かかるでしょ？私の家にいい物があるから取ってきなさい。」と途中で料理長が交代し、しまいには「カレーはメキシコ風が一番よ。こうやって、スパイスをたくさん入れるの。分かった？」と一品はオフィシャルに日本料理ではなくなったことはさておき、なんとかすべて完成できました。その大改造劇的ビフォーアフターが写真２と３～５です。

写真３（左）、４（中央）、５（右）：盛り付け後の料理

見てください、この美味しそうな品々を。僕もやればできるんです。ほとんど ASIMO 君のように動いただけですが。。。

同僚が揃った時刻が 19 時、スタートの時間に間に合わないからと超特急で準備を進めましたが、その努力を無に帰すように安定のアフリカーンタイム（意味は vol.10 をご覧ください）が発動したことはもうどうでもいいのです。来てくださって、無事に開催できたわけですから。

同僚はこちらの民族であるオバンボ族伝統のオバンボドレスを身に纏って来てくれました（写真６）。シンプルな作りですが、カラフルで華やかさがあるドレスです。会が始まると写真撮影をしたり食事したり会話したり歌を歌ったりダンスをしたりと楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。途中、知らない方も飛び入りで参加したり、出ていったりとしましたが、そのオープンさもアフリカらしいなと思いました。

今回のイベントは準備が大変で冷や汗ものでしたが、その分学んだことも多く、また一つ同僚の先生方と親交が深まったことはいい思い出でした。~~今回で、最初で最後にしたいですが、~~次回またお呼びする時は、もう少しスムーズにできそうです。色々な方の助けを借りながら、でも借りてばかりではなく、その分他の所でお返しながら色々な課題に取り組み、残りの任期を全うしたいと思います。最後に、記念撮影をしました（写真７）。来ていただいた方と助けてくれた同僚への感謝と共に、今回ばかりはこの難所を乗り越えた自分に賛辞を送りたいと思います。

写真６：オバンボドレスを身に纏った同僚たち

写真７：最後に撮った記念写真

ちょこっと余談

アフリカの人々は、皆ダンスが大好きです。彼らは、日本人が目の前にプチプチがあれば自然と潰してしまうように、音楽がかかれば自然と踊り出します。ただ、踊り出すと言っても日本人が考えるような複雑な振り付けを必要とするものではなく、腰をひねったり簡単なステップを踏んだりする誰でも気軽にできるものです。この会の間も「Taka、日本の音楽とダンスを教えてよ」と聞くほど国を越えて興味があります。そのため、もし機会があってアフリカに来られる際は、簡単なものでいいのでダンスができると瞬く間にヒーロー・ヒロインになれます。ちなみに僕は適当な社交ダンスをしたら大爆笑でした😂

次回：スポーツデイで参加した競技の結果とそこから学んだことについて紹介します！